

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101243
法人名	株式会社メディックス
事業所名	グループホーム パートナーハウスやまぶき
所在地	松山市下伊台町1293番3
自己評価作成日	平成28年11月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズに合わせた支援を行い自分の居場所と思える空間づくりをしている。 ・自立支援を促しできることを続けてもらい、「もう少しでできること」を「できる事」へ変えられるように支援している。 ・季節を肌で感じられる環境で、喧騒から離れゆっくりとした生活が送れる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議を活かして、メンバーと利用者で交流する「認知症カフェ」を試した。利用者にとって懐かしいような話で会話が弾んだようで、管理者は今後も機会を見て継続していきたいと話していた。</p> <p>管理者が家族とのやり取りの窓口になっており、丁寧に話を聞いてくれることに家族は安心を感じている。毎月活動等を知らせる便りをつくっており、個別に近況や健康面について記入する欄を設けている。運営推進会議の後で家族に集まってもらい、要望等を聞き取るように取り組んでいる。敬老会やクリスマス会の折には、家族にも案内して一緒に過ごせるよう支援している。</p> <p>9月から事業所内勉強会を実施しており、職員が交代で担当して取り組んでいる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 パートナーハウスやまぶき

(ユニット名) あやめ

記入者(管理者)

氏名 権名津 太志

評価完了日 28年 11月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の「幸せの追求」、スローガンの「あるがままを笑顔で支える。家族と共に。仲間と共に。地域と共に。」を目指して頑張っている。	
			(外部評価) 9月に、事業所内勉強会をはじめて行い、まず「会社の理念と介護の基礎」について理解を深めた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節行事などに参加して地域との繋がりを図っている。	
			(外部評価) 10月のハロウィンには、地域の子ども達に来てもらい、利用者からお菓子を手渡す等して交流できるよう支援した。組内の役員の方が集金に来たり、自治会長や民生委員の方が運営推進会議に参加しており、顔を合わす機会を重ねている。	
		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症介護の現場を家族様以外へお伝えすることは運営推進会議以外ではほぼない状態。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2か月に1回の運営推進会議では行政、自治会の方々、近辺の他事業所、家族様へ参加していただき報告や勉強会、意見交換を行っており、意見交換では取り入れるべき指摘ももらいサービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎回、利用者状況や活動報告を行い、その後、勉強会を行っている。家族には全員に案内を出し、3~4名の参加がある。又、地区の介護事業所で相互参加をしている。会議を活かして、メンバーと利用者で交流する「認知症カフェ」を試した。利用者にとって懐かしいような話で会話が弾んだようで、管理者は今後も機会を見て継続していきたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃からの連絡とまでは取っていない。変更事項など連絡を取り適時アドバイスもらっている。実情は運営推進会議の場で報告している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に、市や地域包括支援センターの管理者の参加があり、事業所の現状について聞いてくれている。管理者は、この一年間の内に、センターの協力を得て「認知症サポーター養成講座を開きたい」と話していた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施設内で対象者はいないので、今後も拘束を行わない介護に努めていく。 玄関の施錠は防犯の意味も含めて継続して行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>社内研修や運営推進会議時の勉強会で、虐待や身体拘束について勉強している。玄関は、内側の壁上部に電子ロックを設置しており、職員が操作して開けるようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修を行い毎年見直しや理解を深めている。日々のケアの中でも虐待にならないように考え支援している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の学ぶ機会は過去には行われていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居される前に契約書を説明と了解をいただく為にしっかりと時間をとり、理解していただいた上で契約書にサインをもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様の意見や要望がある場合は各職員へ情報共有している。 外部へは運営推進会議で報告している。 (外部評価) 管理者が家族とのやり取りの窓口になっており、丁寧に話を聞いてくれることに家族は安心を感じている。毎月活動等を知らせる便りをつくっており、個別に近況や健康面について記入する欄を設けている。運営推進会議の後で家族に集まってもらい、要望等を聞き取るように取り組んでいる。敬老会やクリスマス会の折には家族にも案内して一緒に過ごせるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度の職員ミーティングで運営側の報告を行い、職員からの意見も聞き取り業務や運営へ反映できるよう検討している。	
			(外部評価) 管理者が年2回、職員個々と面談をして悩みや要望等を聞き取っている。9月から事業所内勉強会を実施しており、職員が交代で担当して取り組んでいる。日頃は、先輩職員が指導に当たっている。レクリエーションの得意な新人職員は、レクリエーション内容の改善案を積極的に出して他職員と話し合いながら実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の面談を定期的に行いコミュニケーションを取ることで仕事のやりがいや不安、改善点などを話している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修や社外の研修を通知、参加をしてもらいスキルアップへつなげてもらっている。事業所内の勉強会も随時開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同地区の他事業所と連携のため各事業所の運営推進会議に参加している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前には必ず事前の面談を行い本人様の状況や取り巻く環境を確認している。入居してから不安にならないように準備や情報の共有など行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談時や契約時、家族様より聞き取りを行い要望や課題をケアプランとして反映している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談の際に、注意深く聞き取りをして求めている支援を感じ取るよう心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中でできること(洗い物や洗濯等)を行ってもらい役割を感じてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様との関係性を良好に保てるようお会いした時はコミュニケーションを取るよう心掛けている。その中で本人様への課題や施設への要望を聞き取れるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や親族の方との関係性や面会時に話ができるよう配慮しているが長時間は確保できていない。 なじみの場所は行ける範囲と要望に応えられる程度で対応している。 (外部評価) 年末には、家族宛に年賀状を出せるよう支援している。お墓参りや温泉に行きたい等の利用者からの希望は、家族に伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) トラブルの際には中立の立場でお互いを調整する声掛けをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去となった方ともその後の相談ができる関係作りを努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で要望や希望に添えるような支援を行っている。困難な場合には代案を検討している。	
			(外部評価) 職員は、日々の中で利用者の状態把握に取り組んでいる。調査訪問時には、職員に「横にならせてほしい」「巻きずしがほしい」等と訴える利用者の様子があったが、職員は、普段の様子等も踏まえて利用者の状態を見ながら判断をしていた。	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等を探り、情報を整理して支援に採り入れてほしい。理念の実践に向けた取り組みが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の情報の確認や本人との会話で得られる情報で把握に努めている。家族様との面会時にも過去の話聞き情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 今までの日常行っていたことや趣味などを聞き生活情報を得ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画に基づいたモニタリングで現状を日々確認している。定期的に話し合いを行い適切なケアが行われるようにしている。	
			(外部評価)	
			職員が把握した利用者の希望を踏まえて、カンファレンスでケアについて話し合い、支援に取り組んでいる。モニタリング表に、毎日○等の印を付け、介護計画にそってケアが実践できたか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録の記載されている情報は各自目を通し把握し全体が共有できるように連絡ノートを使い共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			日常の支援で精いっぱい多機能なサービスには至っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティアの方にレクリエーションを行っていただくことがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関があり、ご家族の了解を得て医療を開始するようにしている。	
			(外部評価) それぞれの希望する医療機関で、往診や受診ができるよう支援している。受診は家族が付き添うが、都合に応じて管理者が支援している。必要時には、管理者が直接医療機関に連絡して利用者の状態を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員が現在不在で、必要時は協力医療機関へ相談している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の連携室や相談員の方とは定期的に連絡を取り合い入院者の状況等を確認している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の方針や看取りの指針を作成しており契約時には概要を説明している。 看取り開始時には家族、医療、介護で話し合いを持ち意見の統一をしている。	
			(外部評価) 利用契約時に説明を行っているが、家族は「今すぐのことではない」と思っていることが多く、状態変化時に再度詳しく説明している。又、医療機関とも話し合う場を設けて、方針を共有できるよう支援している。この一年間では、状態が急変して事業所に設置しているAEDを使用し対応したケースがある。医療機関から終末期と言われていた利用者が、状態回復したようなケースがある。少しずつでも食事できるように時間をかけて介助し、医療機関とも連携して支援した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			消防訓練や勉強会で救命救急の処置方法を確認している。AEDの使い方も同時に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			半年に1度の避難訓練を行っており災害時の対策を行っている。地域住民にも声をかけている。	
			(外部評価)	
			年2回避難訓練を実施している。運営推進会議と併せて避難訓練を行った際には、メンバーには見学をしてもらい意見をうかがった。利用者や家族等も水消火器を使って消火活動を体験した。	事業所の立地条件や利用者の状態等も踏まえて、避難訓練や地域との協力体制作りをより具体的にすすめてほしい。又、いざという時に慌てず対応できるように、日々の中でもすべての職員が防災意識を高められるような取り組みに工夫してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			その方の性格や心情に合わせた声掛けに努めている。	
			(外部評価)	
			食器洗いが役割になっている利用者があり、無理強いにならないように支援している。台所にはエプロンをかけている。誕生日には、お寿司か赤飯をつくってお祝いをしている。	さらに、利用者主体の支援ができるように、生活の中で本人が選んだり決めたりできるような場面を増やしてほしい。そのような取り組みを重ねて、個々の生活への意欲や自信につなげてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			自己決定ができるような声掛けに努めている。発語が難しい方は表情から読み取れるよう日々観察をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事の時間はある程度決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで生活が送れるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装は季節に合ったもので、髪は訪問美容で定期的に整えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の時間を楽しめるよう会話をした後片付けをしてくださる方にはお願いして行ってもらっている。 (外部評価) 業者の作った献立で食材が届き、職員が調理をして提供している。ミキサー食等の食事の形態については、カンファレンス時に話し合い支援している。ほうれん草が苦手な利用者には、その他の食材を食べられるように声をかけていた。節分等、季節の行事の折には、昼食を手作りにして利用者もかかわる場面をつくっている。	さらに、利用者一人ひとりが食事を楽しめるように工夫できることはないか、職員で話し合う機会を作ってほしい。利用者の食事のこだわりや好み、習慣等を知ること努め、支援に採り入れてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量の確認は毎日行い、適切な栄養が摂取できているか観察している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは必ず行い口腔衛生に気を付けている。ご自分でできる方には見守りしつつ行ってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)		
				排泄のパターンを把握しトイレ誘導の声掛けをしている。表情や行動をよく観察し読み取れるよう努めている。	
			(外部評価)		
				排泄チェック表を付けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)		
				水分量の確認と排便間隔を記録把握し、水分摂取や適度な運動で便秘になりにくい体調を目指している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)		
				各個人のタイミングで入浴することはできていない。声掛けし了解を得られれば入浴してもらっている。体調がすぐれないときや拒否がある際は見合わせている。	
			(外部評価)		
				3日に1回入浴できるよう支援している。1階には家庭浴槽がある浴室と別に、特殊浴槽を設置した浴室があり、リクライニング車いす等を使用する利用者が使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)		
				いつでも休めるように居室環境を整えている。ご自分で意思が伝えにくい方は、日中の時間で休める時間を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者様の個々の内服薬はいつでも見られるようにファイルしている。調剤薬局からの指導もあり服薬方法の確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割でできることはこちらからお願いして行ってもらっている。 今迄の趣味や好きな事を確認しておいて提供できるようにもしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1回は外出行事へでていけるように計画している。その他は叶えられる要望にはできる限りその時に対応している。 家族様にも協力を仰いでいる。	
			(外部評価) 月1回の外出については、職員で情報を持ち寄り、利用者の状態を踏まえて行き先を決めている。現在は、職員の手不足のこともあり、個別で外出する機会は少ない。	今後、管理者職員ともに、利用者個々の希望に沿った外出支援に取り組みたいと考えている。夢企画の取り組みや個人の買い物等も支援していきたいと話していた。協力者等を増やして支援に取り組んでほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金品は施設の金庫でお預かりしている。 週に1回移動スーパーがくるので可能な方は買い物の支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話を掛けて家族や友人と話をできるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共用の空間はできる限り季節感を感じてもらえる空間づくりを目指している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関先にはプランターに花を植えている。夏には駐車場に出て花火をしたり、ベランダでシャボン玉をしたりして遊んでいる。又、秋祭りにはみこしが来る。調査訪問時には、居間にクリスマスツリーを飾っていた。又、テーブルを囲んで数名がぐらぐらゲームを楽しんでいた。別のテーブルでは、来年壁に飾るための干支の絵を塗っている利用者がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>制限は設けず自由に過ごせる空間にできるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅から使い慣れた物を持ち込んでもらい少しでも施設の環境に慣れていただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者によっては、家族来訪時一緒に、掃除や片づけ、衣替え等を行っている。好きな時間に居室で過ごす方については、暖房をつけて寒くないようにしていた。朝は窓を開けて換気を行っているが、居室によっては臭いが気になるようなところがあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自立支援となるよう出来ることは可能な限り行ってもらっている。少しの支援でできる時はそこを補えるように支援している。</p>	